

事業実施テーマ

単品部品製作における短納期対応・ コスト削減の為の生産プロセス強化事業

事業名

平成24年度ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等補助金

企業紹介



同社の池田社長と技術者

自動車・省力化産業用生産設備などを 設計・加工・製作・据付まで一貫して製造

当社は、昭和50年に設立し、主に自動車関連や包装資材メーカーなどの主要取引先とし、そのメーカーの量産品生産設備などを製造・取付納品している。

繊維加工設備をはじめ、省力化産業設備、特殊フィルム製造設備などの製作を通して培った専門性を保ちながら、生産設備の製作における設計・加工・製作・組付・据付にいたるまで一貫した製造できるのが当社の強みである。

多量、少量に関わらず、フレキシブルに対応することがモットーであり、個別生産を基準とした取引先の製造現場からの多種多様なご要望にも素早く的確に対応し、ニーズに応えるためのスペック・価格・納期の実現を日々目指している。

しかし、売り上げも伸び、顧客との信頼関係を醸成してきたが、一方で顧客の生産設備の省スペース化（小型化）の流れや納期対応の迅速化・コストダウンへの要求対応に課題を抱えていた。

取り組みの経緯



同社で製作する単品部品の一部

単品部品の一貫加工体制の 構築に取り組んだ

当社では、これまでは単品部品の製作において、立型NCフライス盤を1台保有し、加工をおこなっていた。

しかし、受注量の増加とともに、顧客からの要望でもある短納期での対応ができにくくなってきていた。また、各生産機械の精度（性能）についても、その向上を顧客より求められてきていた。そのため、既存設備であるNCフライス盤での部品加工の活用頻度も上がってきた。

例えば、加工部品のひとつであるブラケットなどは、従来1面加工でよかったものが、2面加工を要求されるなど、社内での製造体制に無理が出てくるようになった。

こうした状況により、納期対応するために自社内で消化しきれないものも増えてきた。

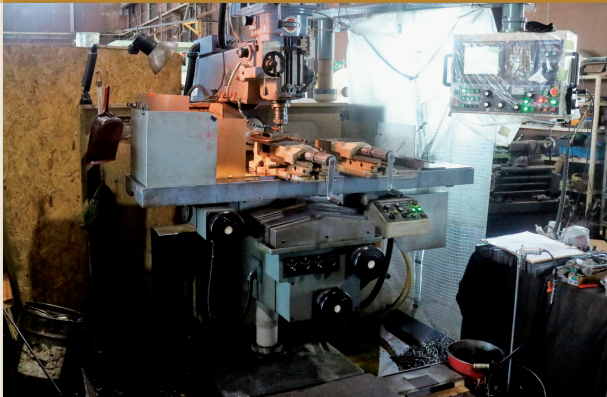
その結果、部品の外部調達比率が上がり、自社の製造経費のコストアップの要因となるなど、当社としても大きな経営課題としてクローズアップされ、その対策が喫緊の課題となってきた。

▶ 会社概要

- 社 名：大和エンジニアリング株式会社
- 代 表 者 名：代表取締役 池田厚志
- 所 在 地：〒435-0052 浜松市東区天王町1921
- 取 材 地：同所在地
- 設 立 年 月：昭和50年6月
- 資 本 金：60,000千円
- T E L：053-422-1510
- U R L：<http://www.dywa.co.jp/engineering/>



▶ 取り組みの内容



事業で導入したコントロール付きニータイプフライス盤

難加工対応・短納期・コストダウンを目指し最新フライス盤を導入

そこで、本事業においては、最新のフライス盤を導入し、単品部品一貫加工技術構築に取り組むことで以下の2点の改善を図ることが出来た。

- ①従来は、2回以上の加工が必要であった2面加工に関しては1回の加工で完了させることでコストダウン及び短納期化を実現した。
- ②従来精度の必要であった取付部品などに関しては、複数の部品を組み合わせることで精度を満たしていたが、これを設計段階から部品設計を見直し部品数の削減を実現することでコストダウンに結び付いた。

当社の取引先である大手自動車部品・包装資材メーカーなどでは、各社10億～20億規模の設備投資を毎年実施している。この設備投資に対して、対応をはかっていくには、短納期化とコストダウンが求められており、それに答えることが出来れば、当社の市場占有率は高まることとなる。

結果、単品部品一貫加工技術の構築により、生産プロセスが強化され、鉄及びアルミ素材に関して短納期化及びコストダウンが実現した。

▶ 結 果



同社で一貫生産される製作中の設備

産業用設備機械のエキスパート集団を目指して

本事業の取り組みにより、当社の強みであった産業用設備機械のエキスパート集団として、設計から制作・据付・運転試験まで、一貫体制でトータルにサポートする体制整備の強化が図られ、売上・受注共に右肩上がりとなってきた。

これまでコストの要望に応えられなかった大手鋳造部品製造メーカーやプラスチック部品製造メーカーからの単品治具製作及びその取付などの新規受注も見込まれる。これは、将来的に年間1,000万円程度の新規受注に繋がっていくものと考えている。

また、既存取引先である大手企業の定例的な大規模設備投資についても社内生産体制が整わず、今まで取り込めなかったが、今回確立した短納期対応とコストダウンにより構築した生産プロセスを活用・提案し、受注の獲得も積極的に目指し、今後も製造現場を助ける専門医のような存在になれることを願っている。